

庚

再整備記念

国指定重要文化財 旧広瀬座

プレこけら落とし公演

令和8年

11/1
日

〔午前の部〕 〔午後の部〕
10:00開場 14:00開場
10:30開演 14:30開演

会場：福島市民家園 旧広瀬座

福島市上名倉字大石前地内
(あづま総合運動公園内)

劇団120〇EN

「むつのはな-義民芝居太郎右衛門-」

観覧申込

オンライン、文化振興課（窓口・電話）、西支所（窓口）

観覧料

無料 全席指定席です。あらかじめ観覧申し込みをお願いいたします。
(満席になり次第受付終了となります。)

9月10日（木）午前9時
観覧申込受付開始

オンラインでの観覧申込はこちらから→

お問い合わせ：福島市文化振興課 TEL:024-525-3785



公演内容

『黒沼神社 巫女舞（浦安の舞）』



黒沼神社には、江戸時代後期の嘉永年間、地元の役者連による地芝居や手踊りが盛んに行われていたとする古文書と掲額があります。また、祭具庫には、古い翁面や天狗面、ひょっこ面などがあり、昭和初期まで祭場で神事芸能が行われていたものと推察されます。

浦安の舞は比較的新しい舞で、昭和15年、紀元2600年を記念して作られました。神恩感謝と国民の平和を祈念した舞と言われており、扇舞、鈴舞からなる神楽舞です。

再スタートする旧広瀬座の舞台を清め、今後の成功を祈願し、奉奏されます。

劇団1200EN 『むつの花 ー義民芝居太郎右衛門ー』

作品あらすじ

享保年間、陸奥国信夫郡。長雨による凶作と、代官・岡田庄太夫による年貢の増徴に、人々は飢え苦しんでいた。百姓代の太郎右衛門は、大森代官所に年貢の軽減を嘆願する。しかし願いは聞き入れられぬばかりか疎まれ、やがて命まで狙われることとなる。

窮地の太郎右衛門を救ったのは、星神を祀る一族の末裔・シケだった。二人は村を救うため江戸へ上り、ご法度である命がけの直訴に踏み切るのだが――。

十数年の後。岡田庄太夫は、九州・豊後国日田の代官へと栄転していた。西国の富が集まる豊かな天領。その村々でもまた人は飢え、穴井六郎右衛門という百姓が、我が子とともに江戸へ発つ。あの男と、まったく同じように。

劇団紹介

劇団1200EN（ひゃくにじゅうえん）は、福島市で活動する劇団です。「福島に住む人々のルーツを辿る演劇集団」として、福島市に伝わる民話や歴史を下敷きに、福島だからこそ観ることの出来る創作劇を探し、定期的に上映しています。



旧広瀬座の歴史

「旧広瀬座」は、明治20(1887)年、福島市の北東に位置する旧梁川町（現在の伊達市梁川町）の広瀬川南岸に、町内有志により建設された芝居小屋です。芝居や映画の上映など、地域の人々の娯楽の場として親しまれてきましたが、昭和61(1986)年の広瀬川氾濫を契機とした河川拡幅工事に伴い、平成6(1994)年福島市民家園に移築復原。平成10(1998)年には国の重要文化財に指定されました。

アクセス

JR福島駅よりタクシーで約25分

JR福島駅より福島交通バスで約30分、徒歩約15分

（JR福島駅東口、「佐原又は四季の里」行き7番から乗車、「室石」下車）

駐車場

あづま総合運動公園サイクルスポーツ広場と共同の民家園駐車場（駐車台数372台）をご利用ください。思いやり駐車場は旧広瀬座口に9台あります。※思いやり駐車場を使用したい場合は事前にご連絡ください。

主催：福島市

共催：西地区ふるさとの歴史再発見事業実行委員会